



# 近畿支部会報2021年9月号

日本サーバス近畿支部長 Ak

京都府等は新型コロナウイルス（COVID-19）の緊急事態宣言が9月30日まで延長になりました。健康のために散歩をしています。その時に、薄黄色の彼岸花を見つけました。季節折々の木々・花・鳥に目を向けています。



我が家は旧暦カレンダーを毎年購入しています。2021年の十五夜・中秋の名月（旧暦8月15日）は、9月21日（火）です。満月は、とても明るく見え、晴れていれば、今年も美しい中秋の名月を楽しむことができるでしょう。平安時代から宮中で月見が行われ、風流な観月の宴になったのは平安時代からだそうです。旧暦の八月の十五夜は「芋名月」とも呼ばれ、秋に収穫されるサトイモやサツマイモを五穀豊穡祈るためにお供えしたところからお供え団子も芋に似せてつくりました。十三夜（後（のち）の月）は、旧暦9月13日の月を眺める日本独自の風習です。2021年は10月18日（月）がその日になります。諸説ありますが、旧暦8月15日の「中秋の名月」を眺める風習（十五夜）は中国から伝わったもので、日本では台風の時期に重なることが多いため、秋晴れとなることが多い旧暦9月に二回目の月見を設定したものとされています。里芋を供えることから「芋名月」と呼ばれる十五夜に対し、十三夜ではこの時季に収穫される栗や枝豆を供えることから、「栗名月」や「豆名月」とも呼ばれています。美しい月を眺めながら、素敵な夜を過ごしませんか？



アラスカ在住のCさん宅から見える風景

今回の会報は、次の内容でお届けします。

1. 例会報告	.....	京都市	Wh
2. Wさんとベアテさん	.....	京都市	Ht
	ベアテさん(1)	大津市	Wa
3. お知らせとお願い	.....	支部長	Ak

## 1, 例会報告

京都市 Wh

少し涼しくなった9月12日にZoomにて支部例会を行いました。参加者は、Hさん、Mさん、Mさん、Wさん、Kさん、Oさん、Nさん、Kさん、Oさん、A夫妻、C夫妻、Wです。

今回は、2006年よりアラスカ・アンカレッジにお住まいのCtさんとmご夫妻に、驚くべきライフスタイルのお話をして頂きました。私としては初めての海外の方とのZoomにワクワクしました。事前に送られてきた100枚あ



まりの写真をもとに興味あるお話がてんこ盛りでした。

自らの手で建てたログハウスは、まさに国立公園内のポツンと一軒家でした。四季折々の北アメリカ最高峰のデナリ山を臨み、広大な湿原には Fireweed(ヤナギラン)の密生、ブルーベリーなどは食べ放題とのこと、これはちょっと羨ましく思いました。ムース(ヘラジカ)はウジョウジョいるとか、他に狼、熊などまさに周りは野生動物園で、お出かけ時は必ず鈴を付けて行くそうです。

電気はソーラーパネルで蓄える、水は雨水を貯めて、調理は薪ストーブとプロパンガスと。便利さにあぐらをかいてる私にとってはまるで修行のようです。



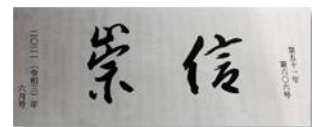
それでも一日中ムース親子の様子を観察したり、大自然の中の露天風呂に入り、mさんご自慢の1920年ものの料理用ストーブで炊いた玄米ご飯が食べたくなりました。

いつの日かアラスカ鉄道でご夫妻の家に向かう車窓からオーロラが見られる日が来ること切に願います。暫しコロナを忘れる楽しいひと時の準備をして下さったAご夫妻、Cご夫妻に感謝です。

## 2.Wさんとベアテさん

京都市 Ht

皆さんもよくご存知の支部会員のWaさんが「崇信」と言う仏教の機関紙を送って下さいました。Wさんは巻頭言に登場されていて、又、ご自身のエッセイ「ベアテさん」を執筆されていました。私は読んで凄いと感動したので、ぜひ支部会報で皆さんにも読んで頂きたいと思ってWさんに連絡した所、快く了承して下さいました。皆さん、どうぞお目通し下さい。これは連載されるそうですので、又お送りします。



私は常々Wさんの平和への熱い思いから教えられる事が多々あり、とても励まされています。この崇信を読んで、Wさんの揺るぎない平和への信念は、このような仏教の教えに裏打ちされた深く非常に強いものだと思えて感じた次第です。

ベアテさんについて少し紹介しておきます。(Wikipedia)

ベアテ・シロタ・ゴードンさん (Beate Sirota Gordon, 1923年10月25日～2012年12月30日) は、アメリカ合衆国の舞台芸術監督、フェミニスト。ウィーン生まれでユダヤ系ウクライナ人(ロシア統治時代)の父母を持ち、少女時代に日本で育った。1946年の日本国憲法制定に関わった人物として知られている。22歳で連合国軍最高司令官総司令部(GHQ)民政局に所属し、GHQ憲法草案制定会議のメンバーとして日本国憲法の人権条項作成に関与した。日本では日本国憲法第24条(家族生活における個人の尊厳と両性の平等)草案を執筆した事実が1990年代になって知られ、著名となった。

## ベアテさん (1)

大津市 Wa

「Aさんベアテさんてご存知？」という電話を受けたのは2007年9月の下旬の夜。電話の主は横浜の小学校からの親友T子さん、高校の英語教諭、勤務校の校長夫妻は熱心なフェミニスト。

ベアテさんが来日、東京で講演という情報を得た校長夫人は横浜での講演を打診。何故か断りの返事。夫人は何としてもベアテさんの講演を実現したく夫君に相談。夫の校長はベアテさんへの依頼状を書く事をT子さんに託した。彼女は書店で「1945年のクリスマス」というベアテさんについての本に出会い、一読して感動。その感動のままに書いた依頼状に承諾の返事！ その喜びを大津の私に伝えてきたのだった。「それは素晴らしい、おめでとう！」でも、電話を切れない私がいた。「ところでベアテさんはご高齢、度々の来日はどうかしら？ そんなに大切な方に京都には来て頂けないのかしら？」彼女も私と羽根の色が同じだった。ベアテさんと来日するMaさん(対談集「ベアテと語る(女性の幸福)と憲法」聞き手NY在住現代アート画廊経営)にメールすると「ベアテは京都が大好きだからきっと行くと思います」と言う返事。最初の半歩が動いた。費用はざっと百万円。翌日から京都の思いつく限りの団体と友人達に架電。来日は十月の半ば、準備期間がなさすぎると言う理由で全て断られた。頭を冷やして考えれば当然、夜ニューヨークのMさんに「お騒がせしました」とメールした直後に電話が鳴る。「Aさん、大丈夫よ。京都司法書士会のMさんが「やりましょう」と言ってるの。「一人で百万円は容易でないけれど、百人が一万円ずつなら可能性あるでしょ、百万を超えた分は僕が受け持つ」と言う事なの」と、陶芸家Sさんから。切れかけた電球のフィラメントが繋がった。



直ちに実行委員会が立ち上がり急ピッチで準備が進んだ。会場はいくつかの意見があったが最終的に大谷ホールに決定。会場選定は私の担当でなかったので内心嬉しく、夫の指揮する仏教讃歌の合唱団の練習場である事を告げた。それで急遽コーラスもプログラムに入る事に。

京都司法書士の方々と私達大津田上九条の会員は七千枚のチラシを思いつく限りの場所に配った。更に大手新聞社の殆どがベアテさんの写真入りの予告記事で協力してくれた。田上九条の会では夫婦で二



万円と言う申し出が続き短時日に目標額に近づきつつあった。実行委員会は壇上のベアテさんと客席の聴衆という枠を超えて、ベアテさんの人柄に触れる機会を拵えた。当日の昼食は京都らしい設えのお店で二十人の希望者と共にした。六時からの公演に備えて大谷ホールの和室に布団を並べて休憩を。ところがベアテさんはその布団に俯せになって段ボール箱一杯の著書にサインをしていらした。前日午後京都入り、(その前に東京、横浜でいくつかの講演)夕方から祇園で少人数の歓迎会、85歳の誕生日を目前にしてこのタフネス。そこには命ある限り平和に艇身する意気込みが漲っていた。それは22歳

で日本の平和憲法の草案に関わったというだけの理由ではない。叔父のヴィクトルはワルシャワで政治犯として行方不明。その息子はノルマンディー上陸作戦で戦死。叔父のピエールは音楽プロデューサーとしてパリで活躍したがナチの台頭と第二次世界大戦で悲劇的な最後を遂げた。父親のレオは日本政府に招かれ上野音楽学校ピアノ教授であったが、戦時中は官憲の目が光り軽井沢で暖房も食料も乏しい生活を強いられた。ベアテさんはシロタ家の数少ない生存者であった。平和への希求のほどが知れよう

### 3.お知らせとお願い

支部長 Ak

\*今後の例会は下記のように予定していますが、COVID-19 の関係から変更する可能性があります。

①総会は、場所「下京いきいき市民活動センター」。総会に先立って平和の取り組みとして近くの旧柳原銀行（柳原銀行記念資料館）へ行き、見学、講演、DVD 視聴等を行います。

旧柳原銀行 <https://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000061458.html>

\*住所、電話、メールアドレス等変更がありましたらお知らせください。

以上